

第3部 希望の家の運営

I 令和5年度事業総括

第1 課題及び基本方針への対応

利用者、家族、そして職員が将来への希望を抱き、安心して生活できるサービス提供、施設運営を目指し、支援力向上、労働環境の改善に取り組みました。

調布市におけるセーフティネットの役割を果たす施設として、近年施設の重度化が進んでいますが、利用者構成や利用者数は経営面のみならず、利用者の生活にも影響を与えます。

希望の家に求められる役割、利用者にとって望ましい環境、持続的な運営など、多角的な視点から、調布市や特別支援学校と情報共有し、意見交換を行いました。今後も引き続き、協議、検討を図ってまいります。

第2 重点項目の総括

1 個別支援・日中活動の充実

固定観念にとらわれることなくチャレンジを重ねました。これまで外出活動や教室活動は難しいと思っていた方が楽しそうな様子で参加されていた、なかなか作業に集中できなかった方が、新しい作業を提示したところ意欲的に取り組むことができた、などの発見が数多くありました。施設内の構造化の工夫や、名刺作成など利用者の強みを活かした新しい自主製品の開発も進めました。

また、大学生ボランティアによるパソコン教室や、親子（母と幼児）ボランティアによる日中活動への参加、近隣の子どもたちと e-sports 対戦、利用者作品展の移動展など、令和5年度も新たな出会いをいただき、地域の方々との交流を通じた彩り豊かな時間を創出できました。

2 事業継続計画（BCP）の策定

感染症や自然災害が発生した場合であっても、サービスが安定的、継続的に提供される必要があることから、令和3年度の介護報酬改定において事業継続計画（BCP）の策定が義務付けられました。希望の家でも施設ごとに BCP（自然災害編）、BCP（感染症編）をそれぞれ策定しました。今後も年に一度、各施設で内容を点検し、必要に応じて修正していきます。

3 職員の支援力の向上と労働環境の整備

ミーティング時間を活用しての勉強会開催、月ごとの「虐待防止目標」や「支援目標」設定と、結果のふりかえりなど、職員同士が互いに高めあえるような工夫を重ねました。また、養成機関が実施する外部研修に参加したほか、年度末には3施設全職員が参加して全体研修を開催しました。

労働環境整備については、朝送迎の出発時間を遅らせ、労働時間の適正化を図りました。

出発時間の変更によって、連絡事項を伝達し、一日の流れを確認するブリーフィングに全職員の参加が可能になったことも働きやすさにつなげることができました。

Ⅱ 個別事業

第1 調布市希望の家の運営

番号	事業名	財源			
		自主 寄他	補助	委託 市	利用 ○
(1)	調布市希望の家運営受託事業				

結果の概要

- 社会的にコロナが収束しつつあるなか、ハイリスク施設として、利用者・職員ともマスクの着用は推奨を続けた。感染症の広がりは無かった。
- 個別支援計画に基づいた支援を行い、利用者及び家族との顔を合わせた面談を継続し、常に些細なミスや事故・ケガを防止しながら、安心できる信頼関係作りに努めた。
- 行事も再開し、「作業所等連絡会の運動会への参加」「日帰り旅行(さがみ湖プレジャーフォレスト)」「夏祭り(地域のつどい)」「季節行事」等、集団で交流できる機会が増えていった。
- 近隣住民のボランティアが増えたことや、施設近くの企業に古紙回収先が広がるなど、地域とのつながりが広がった。

1 利用人数

結果の概要

- 調布市希望の家は利用者24人→23人。利用者1人が家庭の事情により施設入所した。
- 調布市希望の家分場は年度当初は利用者11人であり、6月に施設入所により1人退所となったが、その後同施設を退所され、10月に希望の家分場へ再入所している。また、2月末日で1人退所し、利用者10人となった。

実績等

利用実績(年間) ※休日/土日祝日、年末年始(12月29日~1月3日)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
調布市希望の家	利用人数(人)	24	24	24	24	24	24	23	23	23	23	23	23	282	23.5
	開所日数(日)	20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	20	243	20.3
	のべ出席人数(人)	438	439	474	429	460	426	433	410	404	386	394	417	5,110	425.8
	出席率(%)	91	91	90	89	87	89	90	89	88	88	90	91		89.0
調布市希望の家分場	利用人数(人)	11	11	10	10	10	10	11	11	11	11	11	11	128	10.7
	開所日数(日)	20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	20	243	20.3
	のべ出席人数(人)	192	190	184	166	183	140	196	178	190	183	178	185	2,165	180.4
	出席率(%)	87	86	84	83	83	70	85	81	86	88	85	84		84.0

利用者年齢構成等（令和6年3月31日現在）

年 齢	調布市希望の家			調布市希望の家分場			全体
	男	女	小計	男	女	小計	合計
～19歳	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
20～29歳	6人	3人	9人	0人	2人	2人	11人
30～39歳	6人	0人	6人	2人	1人	3人	9人
40～49歳	0人	0人	0人	1人	0人	1人	1人
50～59歳	3人	1人	4人	2人	1人	3人	7人
60歳～	0人	4人	4人	1人	0人	1人	5人
計	15人	8人	23人	6人	4人	10人	33人
平均年齢	32.9歳	48.9歳	38.5歳	48.2歳	34.0歳	42.5歳	39.7歳

利用者障害支援区分構成（令和6年3月31日現在）

障害支援区分	調布市希望の家			調布市希望の家分場			全体
	男	女	小計	男	女	小計	合計
区分1～2	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
区分3	0人	3人	3人	0人	0人	0人	3人
区分4	4人	1人	5人	2人	0人	2人	7人
区分5	5人	2人	7人	2人	2人	4人	11人
区分6	6人	2人	8人	2人	2人	4人	12人
計	15人	8人	23人	6人	4人	10人	33人

※内、重度支援対象者6人
 ※内、重度支援対象者8人
 ※内、重度支援対象者10人
 ※平均支援区分5.0

2 健康維持、教養娯楽活動、各種イベント等

結果の概要

- 各教室活動や作業療法活動等、専門講師による活動を継続的に行うことで、健康維持向上や生活リズムの安定につながった。
- 健康維持のため、ラジオ体操や室内運動、ウォーキング等の運動の機会を提供した。
- ハロウィンや節分などの季節行事は、衣装などが日常とは違う楽しさを感じることができ、利用者も職員も一緒に盛り上がる事ができている。

実績等

定例活動	回 数／内 容
体操（ダンス）教室	本場：月2回・2時間（30分間×4グループ）／ストレッチや筋トレが中心で、体力や年齢を考慮したグループ編成で行っている 分場：月1回1時間／前半にストレッチ、後半にダンス等を行っている。

水泳教室	分場：希望の家深大寺の水泳教室に少人数ずつ、交代で参加した。
音楽教室	月1回・1時間
ジャンベ教室	月2回・20分／打楽器の演奏
作業療法活動	月1回・1時間程度／作業療法士による運動機能維持等の活動
体操	本場：週1回 分場：毎日
ウォーキング	不定期・1時間～2時間
フィットネス	本場：週2回／ウォーキング・サーキットトレーニング 分場：週1回／輪投げ、ボール投げ、マット運動等

イベント活動	実施日／内 容
日帰り旅行（バスハイク）	10月20・27日／2回に分け、さがみ湖プレジャーフォレストに行った。
リフレッシュ活動	少人数のグループに分かれ、外食を伴う外出活動を行った。
運動会	6月2日／パラスポーツセンターにて福祉作業所等連絡会の運動会に参加
音楽鑑賞会	12月8日／プロミュージシャンによるサクソとアコーディオン演奏
年度末お楽しみ企画	本場では3月8日にゲーム「太鼓の達人」を2グループに分かれて対戦し、その後スイーツを食べた。
季節行事および出前給食	奇数月と季節行事の時期に出前を取り、外食活動の代替とした。

分析・課題

- 利用者の年齢層は20～70歳代の幅の広さがあり、年齢や体力面、特性・相性に応じた利用者のグループ編成を定期的に見直し、調整しながら実施していく必要がある。
- 体重増加や運動不足による筋力低下となる利用者が多い傾向にある。各種教室のほか、短い時間であっても歩く機会を増やす必要がある。過度な負担が無い程度に、継続して運動を取り入れている。
- 少人数グループでの1日外出「リフレッシュ活動」を行い、行き先は、相模原の牧場、高尾山の登山、カラオケ、ボーリング、映画、動物園など、希望を聞きながらグループをつくり、さまざまな場所へ安全に行くことができた。

3 生産活動

結果の概要

- 企業からはこれまで同様、榮太樓総本舗の和菓子梱包、六和精工の部品袋入れ作業等を受注している。
- 自治体からの古紙回収・公園清掃等は継続し、作業所等連絡会の共同受注によりポスティングも定期的実施した。
- 自主製品販売の機会は、徐々に増えていき、売り上げも伸びてきた。利用者の能力を引き出した新製品の「名刺作成」は、まずは法人内の職員向けに徐々に受注を拡大している。
- 地域の団体からは、昨年に引き続き、フードバンク調布より食品運搬業務を受託している他、学生服のリユースを行っている「さくらや」からも、学校ジャージの刺繍取り作業を受注している。

実績等

企業等からの受託	和菓子の箱詰め、部品袋入れ、衣類の刺繍取り作業
自治体からの受託	古紙回収
作業所等連絡会の共同受注	公園清掃、ポスティング（ふくしの窓、ごみカレンダー）
手作り品製作販売	織物、刺繍、アクセサリ、レターセット、名刺等
常設委託販売先	総合福祉センター
イベント販売	本場の夏祭り、福祉まつり、各種イベントでの販売参加

分析・課題

- 利用者の「細かい絵」を描く才能を活かした「レターセット」の商品が展開して「名刺」作成を始めた。加工や印刷のスキルを持つ職員を増やし、その作業時間を確保していきたい。
- 室内作業の「栄太樓」「六和精工」は繁忙期と閑散期があり、企業とも相談しながら、計画的な作業量の調整が重要となる。

4 昼食提供

結果の概要

- 配達弁当にて、普通食と低カロリー食を提供している。肉禁やアレルギー食、きざみ食等、個別の対応も行った。

実績等

種類	回数／内容
配達弁当	原則として毎昼食。
出前注文	約2ヵ月に1回、市内店舗より、さまざまな出前昼食を注文。
カレーの注文	月1回、市内店舗よりカレーを注文。

分析・課題

- 利用者の健康状態に応じて、その都度食事形態を変更した。
- 出前注文により、普段とは違った食の楽しみを得る機会を設けた。

5 健康診断、健康管理

結果の概要

- 健康相談と合わせて問診（本場7回・分場3回）を実施し、健康診断の結果から医師のアドバイスを聞き、利用者・家族と情報を共有した。
- 看護師による月1回の体重・血圧測定を実施し、年間を通しての利用者の推移を把握した。
- こまめな手洗いの継続、毎日の検温、加湿・室温管理・換気等を行った。
- 歯科健診を行い、歯の状態確認とブラッシング指導、歯科医師のアドバイスを聞き、利用者・家族

と情報を共有した。

○災害時に備えて、1日分の薬を予備薬として預かっている。

実績等

種類	回数及び実施日時／内容
健康診断（多摩川病院）	5月25日／施設内で身体測定、検尿、胸部X線、視力、血液検査、HBs抗原抗体検査、HCV抗体検査、クレアチニンを実施。40歳以上を対象に、眼底、心電図、腹囲検査を実施。 6月9日／40歳以上を対象に通院し、骨密度検査を実施。
体重・体脂肪・血圧測定（看護師）	月1回／施設内で実施。希望の家看護師による測定。 月の推移をチェック。
インフルエンザ予防接種	季節性インフルエンザワクチンの予防接種 本場：10月17日 分場：10月30日
歯科健診（調布歯科医師会）	本場：7月12日 分場：7月20日
聴診、健康相談（嘱託医）	本場年7回・分場年3回、希望者及び健康診断結果を基にした対象者／健康の相談及びアドバイス

分析・課題

○高齢化や重症化リスクの高い利用者が多いため、引き続き感染症対策を行っていく必要がある。

○内部研修や嘱託医との相談機会等によって、医療に関する知識を学ぶ機会をつくっていく必要がある。

○毎月の健康チェックや健康診断結果から、過去との比較や数値化したものを家族とも共有し、生活習慣病予防のための意識を向上させる。

6 当事者活動の支援

結果の概要

○利用者、家族の当事者活動を支援し、その意見を施設運営に反映するよう努めた。

*利用者自治会（利用者で構成する会）

月によって、オンライン開催と集合型の開催を併用し、3施設の活動報告や、情報交換や交流する場となった。利用者自治会長は運営委員も担っている。

*家族連絡会

集合型で開催した。

実績等

団体名	回数／内容
利用者自治会	月1回（3施設合同）／行事や活動の計画等
家族連絡会	年2回／情報交換、意見交換等

分析・課題

- 利用者自治会については、オンライン開催と集合開催、双方のメリットを使い分けて行う必要があり、集合開催の場合、時間帯や場所の準備、参加人数・車の台数の調整が必要となる。
- 施設側の発信である「家族連絡会」と家族の自主組織である「家族会」を前半後半に分けて開催し、家族とも顔の見える関係で、話し合う機会を持たせた。

7 送迎事業

結果の概要

- 自力での通所が困難な利用者を対象に実施した。
- 利用者の体調や安全面を考え、迅速な送迎サービス対応に努めた。
- 配慮を要する利用者やショートステイを利用する際に個別送迎を実施した。
- 車内の消毒や換気を継続し、感染予防に努めた。

8 運営管理業務

(1) 苦情や要望の受付と問題解決

結果の概要

- 第三者委員2人と苦情受付担当者1人、危機管理責任者1人を置いて相談窓口とし、苦情・要望への相談対応や問題解決に努めた。
- より良い施設運営に向けた取組として、毎日の振り返り時に出しあった意見（ヒヤリハット等）を「気付きメモ」として記録し、第三者委員会に向けて分析を行った。
- 効果的だった支援や利用者の成長が感じられた場面等の「にやりほっと」についても記録を残し、プラスの内容も共有していった。

実績等

- 第三者委員会を10月、3月に実施。事業実施状況、利用者・家族アンケートの報告、事故・苦情や気付きメモの報告を行い、課題解決に向けて意見交換した。気付きメモの報告については、代表的な事例や、特に重点的に取り組んだ事例について発表し、具体的な支援状況も共有したうえで意見を頂いた。以上の内容から、事故に対する職員の危険予測能力を高めるとともに、有効な事例を共有することでのモチベーション向上につながっている。

分析・課題

- 第三者委員より、以下のような意見を頂いた。
 - ・新型コロナウイルスの流行が落ち着いたこともあり、様々な外出機会を増やしたり、地域との繋がりを積極的に増やそうとしていることが良いと感じた。
 - ・物を壊す行動がある利用者については、その方の行動を記録する等、客観的に状況を把握することで、支援のヒントが見えるかもしれない。

- ・「この利用者はこういう人だ」という先入観を廃し、現状をアセスメントしながら能力を伸ばそうと支援を組み立てている様子がよかった。
- ・利用者の動きは予測がつきにくいものもあるため「〇〇だろう」ではなく「〇〇かもしれない」という、想定する範囲を大きめにとった備えをしていくことが必要。
- ・先輩が新人職員に支援方法を教える際、その支援がなぜ必要なのかの目的と、なぜその支援が有効なのかの根拠を示すことが大切。
 - ・ヒヤリハットや事故報告は大事だが、そればかりでは利用者のマイナス面に着目し、警戒する対象としてのレッテルを貼ることに繋がりがかねない。利用者の強みにも焦点を当てられるとよい。

(2) サービス評価

結果の概要

○希望の家独自のアンケート調査票を用いてサービス評価を実施した。集計を行い、第三者委員の講評を受けた。

事業評価

項目	内容
利用者アンケート調査	利用者本人へ書面によるアンケート調査。本人が答えるか、家族が本人の気持ちを推察して回答。
家族アンケート調査	家族へ書面によるアンケート調査
第三者委員会	職員、第三者委員による講評会

分析・課題

- 利用者・家族ともに概ね現在の希望の家のサービスに満足しているという評価を得た。改善の要望・評価されている部分のどちらも把握し、共有していく。
- 自由意見等に対し今後の施設としての対応を示していく必要がある。

(3) 運営委員会

結果の概要

○5月、11月、2月の年3回実施した。希望の家深大寺運営委員会との合同開催とした。

実績等

調布市希望の家運営委員会委員構成

任期：令和4年4月1日～令和6年3月31日（敬称略）

	氏名	選出区分
委員長	日比生 信義	地域関係機関（石原小学校地区協議会）
委員	夏目 純一	市民有識者
委員	進藤 美左	NPO 法人調布心身障害児・者親の会
委員	菊池 利恵子	希望の家家族会

委員	松永 美恵子	調布市希望の家自治会
委員	渡辺 哲男	関係機関（調布市社会福祉事業団）
委員	能登 和子	関係機関（調布市民生児童委員協議会）
委員	山田 亜里沙	調布市福祉健康部障害福祉課係長
委員	田中 賢介	社協評議員
委員	橋本 ゆかり	社協理事

※希望の家深大寺運営委員会との合同開催とし、両委員会の委員長は副委員長も兼ね、両委員長が輪番で議長を務めた。

令和5年度 調布市希望の家及び希望の家深大寺合同運営委員会開催状況

回数	開催日	内容	出席人数
第1回	5月31日	令和4年度事業報告、決算報告、希望の家3施設の近況報告	11人
第2回	11月8日	令和5年度上半期報告、令和6年度予算案等について	12人
第3回	2月28日	希望の家3施設の近況報告、令和6年度希望の家事業計画（案）について、令和6年度予算について	11人

分析・課題

- 施設運営、事業内容、職員育成、予算案など、各委員より様々な視点での意見をいただき、実際の運営に反映させた。
- 希望の家の行事に参加していただける委員もいて、地域の方々と互いに助け合える関係作りを更に広げていきたい。

(4) 職員の資質向上

結果の概要

- オンラインや集合型での研修に積極的に参加した。

実績等

研修会等	主催
東京都市町村審査会委員研修	東京都心身障害者福祉センター
福祉職員キャリアパス チームリーダー研修	東京都社会福祉協議会
地域福祉コーディネーター等養成研修	東京都社会福祉協議会
部下・後輩を育てるコーチング研修	東京都社会福祉協議会
職場内研修担当者の必要な基礎知識研修	東京都社会福祉協議会
福祉職のための記録の書き方研修	調布市福祉人材育成センター
安全運転講習	トヨタドライビングスクール
普通救命講習（AED）	調布市社会福祉協議会

分析・課題

○職員全体研修では、外部ではなく経験を有するボランティア兼運営委員長の話し、職員の発表、3施設職員がグループで交流する機会を作った。

(5) 事業・建物管理

○調布市障害福祉課及び調布市社会福祉協議会法人事務局と連携して、円滑な運営に努めた。

(6) 危機管理体制の整備

結果の概要

○衛生推進者を設置し、法人の衛生委員会に出席すると共に、衛生管理や環境整備に努めた。

○消防署の検査があり、階段下の可燃性の物品を撤去した。さらに防災カーテンの確認などを行い、承認を受けた（調布市希望の家本場）。

○毎月1回程度、火災や地震を想定して、点呼・避難訓練を実施した。

○自然災害発生時及び感染症発生時におけるBCP計画を策定した。

9 地域への働きかけ

結果の概要

○8月に夏祭り（地域のつどい）を開催し、駐車場で他事業所4カ所が出店し、キッチンカーでの販売、他事業の利用者も参加しての販売、2階では夏休み中の地域の子ども達を集めてゲームコーナーを実施し、その後、希望の家の定例の音楽教室を、他事業所の利用者も一緒に参加し、普段とは違う盛り上がりを見せる時間となった。

実績等

活動名	内容等
夏祭り（地域のつどい）	8月10日（木）に実施し、地域の方々が来所した。
季刊誌の配布	施設周辺地区の民生児童委員、自治会、公共施設等に配布した。
小地域交流事業への参加	富士見町地域、入間町地域とも再開した。
災害時の地域貢献	災害時については、障がい者等に配慮した避難場所としての施設活用を市と協議している。
会議室（本場2階）の貸し出し	地域住民への貸し出しを実施した。

分析・課題

○「夏祭り（地域のつどい）」は8月夏休み中の平日開催とし、近隣の子どもが来所し、交流の機会となったが、暑い時期で気温が上昇し、熱中症のリスクもあったため、開催時期を検討したい。

10 その他

(1) 個別支援・日中活動の充実

結果の概要

- 個別支援計画に基づき、利用者の年齢や体力面、特性に応じた、きめ細やかな計画で日中活動や作業を行った。モニタリングで個別支援計画の振り返りを行い、利用者や家族との面談、訪問、電話での対話を実施した。
- 関係機関と互いに連絡調整をしながら、医療・健康面の情報共有、新しくグループホーム利用が始まる人の送迎の調整など、細かく丁寧に対応した。
- 「手づくり展」をたづくり 11 階みんなの広場で開催した。人の出入りが多く、関係者も一般の市民も見て頂く機会を作れた。また、古紙回収先である、しばさき彩ステーションでも展示を行った。
- 1日かけてグループ外出し、外食をするリフレッシュ活動の再開、日常でも近隣への買い物などの機会を多く作ることができ、利用者の楽しみが増えた。
- 調布市が電気通信大学、NTT 東日本、NTTe-Sports と協働して実施している「e スポーツを基点とした包摂的な市民交流体験機会の創出事業」に協力し、希望の家3施設間やしばさき彩ステーション、調布市子ども・若者総合支援事業ここあなど外部の施設をオンラインでつなぐe スポーツ交流事業に参加した。この事業をきっかけに日中活動のメニューにe スポーツが加わった。

分析・課題

- 他の福祉サービス（相談支援、ショートステイ、ヘルパー、グループホーム等）との連携を強化し、医療情報も共有しながら、利用者・家族の思いを尊重しながら、情報提供を進める必要がある。
- 利用者家族の高齢化が著しいため、家族も含めた相談や柔軟な対応が今後にも必要になる。

(2) 広報

結果の概要

- 個人情報保護を徹底するため、広報紙等での写真の利用は本人及び家族の同意を得た上で行った。
- 令和5年度は季刊誌を3回発行し、利用者の手書き文字や感想を取り入れた。また、写真をふんだんに使い利用者にも見やすいよう紙面を工夫した。
- 施設ホームページは、写真を増やすなど、随時更新を行った。
- 本場では屋外に掲示板を取り付け、近隣の人へ活動や雰囲気伝わよう工夫した。

実績等

種類	回数／内容
月のお知らせ	月1回／利用者・家族・関係者向けの予定表とお知らせ
季刊誌	年3回／行事や活動、販売会の売り上げ報告等
ホームページ（社協 HP 内）	随時更新をした。

分析・課題

- 本場の屋外掲示板は強風などで外れてしまうため、設置方法を工夫した。
- 地域への施設理解を広めるために、ホームページにて季刊誌を閲覧できるようにする等、積極的に

ネット媒体も活用した。

(3) ボランティア、協力員、実習生の受け入れ

結果の概要

- 引き続き、近隣のボランティアに利用者支援や作業・活動をサポートしていただいた。
- 大学生等の実習受け入れは積極的に行い、慈恵医科大学の医学部生、社会福祉士等の現場実習を受け入れた。
- けやきの森学園からの高等部2年生の実習受け入れをした。

実績等

行事・活動	人数	内容
織物・刺繍製品仕立て	1人	縫製
日中活動	5人	作業補助等
園芸作業	1人	作業の手伝い、園芸
体操教室・音楽教室・ジャンベ教室・アート教室・パソコン教室等	6人	教室講師等
慈恵医科大学及び社会福祉士実習生	7人	
府中けやきの森学園からの実習生	1人	
合計	21人	

第2 希望の家深大寺管理運営

番号	事業名	財源			
		自主 他	補助 市都	委託	利用 ○
(2)	希望の家深大寺管理運営事業				○

結果の概要

- コロナ禍以前と同様の年間行事をすべて実施することができた。
- 地域交流機会となる地域のつどいも、開設10周年に合わせて、4年ぶりに開催することができた。
- 上記の行事活動を経験することが初めてとなる職員が複数いたが、日頃からの支援体制の構築もあり、どれも安定した活動として取り組むことができた。
- まだ検討試行中の方もいるが、利用者一人一人のニーズに合わせて個別活動の実施を進めた。
- 送迎運行時間の見直しや、昼休憩時間の取り方を工夫するなど、適切な労働環境の改善に努めた。
- 事故・ヒヤリハット・にやりほっと事例を月毎に職員全体で振り返る機会を設け、支援業務における必要な視点の構築・継続を図るように努めた。
- 個別支援計画に基づいた支援を行い、利用者の生活課題に対しても家族や関係機関と連携しながら取り組んだ。

1 利用人数

結果の概要

- 3月27日に新規利用者が1名入所しているので、利用者16名でスタートした。

実績等

利用実績（年間）※休日／土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
利用人数(人)	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16		16人
開所日数(日)	20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	20	243	20.3日
のべ出席人数(人)	263	290	318	290	310	284	299	285	288	270	279	293	3469	289.1人
出席率(%)	82	91	90	91	88	89	89	89	90	89	92	92		89.2%

利用者年齢構成等（令和6年3月31日現在）

年齢	男	女	小計
～19歳	0人	0人	0人
20～29歳	6人	4人	10人
30～39歳	3人	1人	4人
40～49歳	1人	0人	1人
50歳～	1人	0人	1人
計	11人	5人	16人
平均年齢	31.8歳	25.6歳	29.9歳

利用者障害支援区分構成（令和6年3月31日現在）

希望の家深大寺				
障害支援区分	男	女	合計	
区分1～4	0人	0人	0人	
区分5	4人	1人	5人	※内、重度支援対象者3人
区分6	7人	4人	11人	※内、重度支援対象者9人
計	11人	5人	16人	※平均支援区分5.7

2 健康維持、教養娯楽活動、各種イベント等

結果の概要

- 専門講師によるダンス教室、音楽教室、ジャンベ教室、水泳教室、作業療法活動において、各利用者が参加しやすいよう、グループ構成、活動時間等にも配慮して行った。
- 4年ぶりに地域のつどいを開催し、コンサートやゲームを通して地域の方と交流することが出来た。当日は利用者の笑顔もみられ、大きな事故もなく実施することが出来た。

実績等

定例活動	回数／内容
ダンス教室	月2回・1時間×2チーム／講師によるストレッチ運動やダンス
音楽教室	月2回・1時間／講師のピアノ伴奏による合唱・合奏
ジャンベ教室	月2回・1時間／講師による打楽器の自由演奏
水泳教室	月1～2回程度（5、6、9、10月）・40分×2チーム／講師による水泳活動
作業療法活動	月2回・1時間×2チーム／講師による創作及び運動機能維持等の活動
ウォーキング	1人週2回以上／近隣及び公園等での30分～1時間程度の散策
美化活動（公園清掃）	1人週1回程度／施設周辺及び指定公園の清掃活動
ミニ調理	月1回程度／昼食及びデザート程度の簡単な調理活動
入浴活動	希望者月2回程度／身体整容と気分転換を兼ねて施設内浴室で実施

イベント活動	実施日／内容
日帰り旅行（バスハイク）	10月20・27日／2回に分け、さがみ湖プレジャーフォレストに行った
リフレッシュ活動	1人2回・夏と冬に実施／目的別に小グループでの1日外出活動を実施
運動会	6月2日／パラスポーツセンターにて福祉作業所等連絡会の運動会に参加
音楽鑑賞会	12月8日／プロミュージシャンによるサクソとアコーディオン演奏
地域のつどい	12月27日／地域の方との交流機会として、開設10周年も祝して実施
作品展示会	2月15～19日／たづくりみんなの広場にて「希望の家手づくり展」を実施
年度末お楽しみ会	3月27日／市内飲食店（空と大地と）にてお茶会を実施

分析・課題

- 利用者の興味・関心、体力面、特性・相性に応じてグループ分けをし、各種活動の提供をした。より積極的に参加できるよう、活動提示の仕方や環境づくりの検討が必要である。
- コロナ禍で外出行事を中止していたため、飲食店での会食や1日通しての外出活動を経験している職員が少なかった。今後、職員の経験値を養うためにも継続して行事を行う必要がある。
- 職員と各教室講師との交流が少なく、お互いの意図を確認し合う場面が足りなかった。日頃からのコミュニケーションや定期的な振り返り・意見交換等が必要と思われる。

3 生産活動

結果の概要

- 企業からの受注（ねじの組み立て・採便管の封入）により、年間を通して安定した作業量を確保し、利用者に作業活動を提供した。
- 毎週2回、古紙回収作業を実施した。
- 調布市福祉作業所等連絡会の共同受注により、ふくしの窓のポスティング作業を実施した。
- 調布市希望の家が受注している公園清掃を一部協力して行った。
- 調布市より受託し、地域活動情報誌「じょいなす」の封入、封緘作業を実施した。
- 希望の家深大寺で栽培したラベンダーを使用しポプリを作成。自主製品として販売した。

実績等

企業等からの受注	ねじの組み立て、採便管の封入、古紙回収
作業所等連絡会の共同受注	ポスティング（ふくしの窓）
調布市からの受注	地域活動情報誌「じょいなす」の封入、封緘

分析・課題

- 利用者それぞれに合わせた作業工程を工夫することで、日常的に取り組める活動として、全ての利用者に何かしらの作業活動を提供することができた。
- 企業等からの受注作業だけに頼ることのないよう、施設内で行う新たな活動も創出されているが、まだ安定的なものではない。販売可能な自主製品作成含め、引き続き検討が必要。

4 昼食提供

結果の概要

- 配達弁当にて、普通食と低カロリー食に対応して提供した。
- お楽しみとして月2回の出前（テイクアウト）や、ミニ調理（お楽しみ調理）を実施した。
- 「ミニ調理」では、自身が食べる分の一工程を各利用者が担えるように手配し、マスクやビニール手袋の着用が可能な利用者に限り、全体の準備工程から入ってもらうようにした。

実績等

種類	回数／内容
配達弁当	原則として毎昼食。
テイクアウトの実施	月2回／近隣の飲食店から選択制で注文を取りテイクアウトを楽しむ。
ミニ調理	月1回程度／ピザやお好み焼き、ハンバーガーを調理して食べた。

分析・課題

- キャンセル時に発注数が合わなくなることもあったため、発注集計表を掲示し、数の変更をした際にはそこに追記することで、全職員がいつでも確認できるようにした。当日キャンセル含め、発注数の変更状況が相互で確認が取れるようになったことで間違いが無くなった。
- 出前の日(テイクアウト)では事前予約ができず当日注文で時間が掛かってしまうことがあった。昼食開始の時間が遅くならないよう、当日は支払いと受け取りだけで済む店舗を開拓する必要がある。
- ミニ調理では新たな取組として、焼き芋なども実施したが、薪割りや火おこしなどの準備過程から利用者も楽しむことができた。引き続き、利用者も一緒に参加できる調理メニューの検討が必要。

5 健康診断・健康管理

結果の概要

- 健康相談を5回実施し、必要に応じて医師からの助言を利用者家族と情報共有した。
- 健康相談には家族の同席を勧め、その際の相談から、家庭での課題を共有する機会となった。
- 看護師による月1回の体重・血圧測定を実施し、年間を通して利用者の状態推移を把握した。
- 看護師による月1回の健康チェック時以外にも毎朝の検温を実施した。また、状況によっては血圧測定や血中酸素濃度の測定を行い、利用者の体調変化の把握に努めた。
- 歯科健診を行い、歯の状態確認とブラッシング指導、歯科受診等の助言を受けた。
- こまめな手指消毒の促しや施設内の換気等を行った。また、人の手が触れる箇所や共有使用される物品等を適宜、消毒清掃した。
- 災害時に備えて、1日分の薬を予備薬として預かっている。半期に一度、交換を行った(薬の形状によっては3ヶ月に1回)。

実績等

種類	回数及び実施日時／内容
健康診断 (多摩川病院)	5月12日／施設内で身体測定、検尿(自宅にて採尿)、胸部X線、血液検査、血圧測定、HBs抗原抗体検査、HCV抗体検査を実施。 6月9日／40歳以上の利用者には上記検査に加えて、眼底、心電図、腹囲、骨密度検査を実施。
体重・体脂肪・血圧測定 (看護師)	月1回／施設内で実施。希望の家看護師による測定。 月の推移をチェック。
インフルエンザ予防接種	季節性インフルエンザワクチンの予防接種。10月13日に施設内で実施。
歯科健診(調布歯科医師会)	7月13日に施設内で実施。

健康相談（嘱託医）	年5回、希望者及び健康診断結果を基にした対象者／健康の相談およびアドバイス。
-----------	--

分析・課題

○健康診断では大半の利用者がスムーズに受検し、年を追うごとに健康診断の場に慣れてきているが、採血・レントゲンに課題のある方がいるため、各利用者の特性に合わせた方法で行えるように配慮していく必要がある。

6 当事者活動の支援（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

7 送迎事業

結果の概要

- 10月より朝の送迎出発時間を15分遅らせて、8時45分出発に変更した。利用者家族の理解と協力も得られたことで、大きな混乱・トラブルなく経過することができた。
- 希望する利用者に対し実施した。令和5年度は利用者16名中15名が送迎を利用した。
- ショートステイ等を利用する場合は、受け入れ先への送迎を行った。
- 利用者や家庭の状況によって、個別送迎に対応した。

分析・課題

- 朝の送迎出発時間を15分遅らせたことで、始業開始時に職員全員で情報共有する時間を設けられた。
- 各利用者の特性や相性等を鑑みながら、乗車位置や送迎ルートを設定しているため、ワゴン車4～5台使用し、内1台は2巡運行している。車内の安全・安心を保つために必要な対応だが、送迎に携わる職員が多くなってしまいう課題がある。当年度も添乗員を増員することができたが、引き続き運転・添乗の臨時職員確保が必要。
- 1月よりショートステイ事業所の「こげら」への迎えも開始したが、乗車場所が車の往来が多い道路での路肩駐車のため、状況により停車が困難な場合もあった。利用者のスムーズな乗車に至ることが厳しいようならば、乗車場所の見直しも必要。

8 運営管理業務

(1) 苦情や要望の受付と問題解決（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

(2) サービス評価（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

(3) 運営委員会（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

希望の家深大寺運営委員会委員構成

任期：令和4年4月1日～令和6年3月31日（敬称略）

	氏名	選出区分
委員長	夏目 純一	市民有識者
委員	進藤 美左	NPO 法人調布心身障害児・者親の会
委員	菊池 利恵子	希望の家家族会
委員	松永 美恵子	調布市希望の家自治会
委員	矢田部 正文	関係機関（深大寺北町山野自治会）
委員	森井 進次	関係機関（NPO 法人わかばの会）
委員	内藤 和男	関係機関（調布市民生児童委員協議会）
委員	山田 亜里沙	調布市福祉健康部障害福祉課係長
委員	田中 賢介	社協評議員
委員	橋本 ゆかり	社協理事

※調布市希望の家運営委員会との合同開催とし、両委員会の委員長は副委員長も兼ね、両委員長が輪番で議長を務めた。

(4) 職員の資質向上

結果の概要

- その日の振り返りミーティングにおいて、事故・ヒヤリハット・にやりほっと事例などの共有を図り、簡易記録化することで、月に一度それらを振り返る時間を設けた。
- 各職員が参加した研修の資料や参考にした文献等を共有し合うことで、資質の向上に努めた。

実績等

研修会等	主催
東京都区市町村社協新任職員研修・基礎研修	東京都社会福祉協議会
強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践）	公益財団法人東京都福祉保健財団
サービス管理責任者基礎研修	東京都サービス管理責任者等研修事務局
新任職員の定着・育成入門研修	東京都福祉人材センター
福祉職のためのメンタルヘルス	東京都福祉人材センター
社会福祉事業従事者人権研修	東京都福祉保健局
専門研修（オンデマンド配信）	調布市福祉人材育成センター
福祉職員階層別研修（初任者・中堅・リーダー）	調布市福祉人材育成センター
安全運転講習	トヨタドライビングスクール
安全運転管理者講習	東京都交通安全協会

虐待防止研修	内部研修
--------	------

※ 上記以外に、社協全体での研修等に参加

分析・課題

- 外部研修に参加した職員からの報告の時間をつくりフィードバックを行った。
- 日常の場面に外部の方を招いてスーパーバイズを受けるなど、職員全員で学び合う機会の創出が必要。

(5) 事業・建物管理

結果の概要

- 調布市障害福祉課及び調布市社会福祉協議会法人事務局と連携して、円滑な運営に努めた。
- 各設備等の必要な定期点検を実施した。
- 設立10年目での経年劣化のため、玄関自動ドアの装置を全交換した。

(6) 危機管理体制の整備（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

9 地域への働きかけ

結果の概要

- 12月27日に地域のつどいを実施。自治会や近隣の福祉施設等に協力をいただき、模擬店の出店やゲームコーナー（ポッチャ、eスポーツ）、恒例のミニコンサートも行い、地域の方や他事業所利用者など多くの方々と一緒に楽しむことができた。また、開設10周年を記念し、利用者と一緒に作成した記念品（ポストカードとラベンダーのサシェ）を来場者にプレゼントしたり、10周年記念のロゴをプリントした「きぼうの旗」を作成して、利用者・来場者にメッセージを書き入れてもらう企画も行った。
- 地域の自治会パトロールへの参加等、地域住民との交流を進めた。

分析・課題

- 地域のつどいのゲームコーナーでは、今回初めて利用者と来場者の対戦形式で実施した。利用者の普段見られない一面を知ることができ、またゲームを通じて利用者が活躍し、地域の方と実際に交流して楽しみを共有する場面にもなった。地域のつどいの最後に行ったミニコンサートに対して、参加された地域の方より、「ミニコンサートがとても良かった」との感想を複数いただいた。今後も利用者が活躍できる場面や、地域の方と一緒に楽しめる場面を多く作っていきたい。
- 今回、近隣小学校の子どもたちを中心とした集客を狙って冬休み時期に開催したが、想定よりも少ない印象だった。年の瀬でもあるので開催時期については検討が必要。

10 その他

(1) 個別支援・日中活動の充実

結果の概要

- 利用者の年齢や体力面、特性に応じた個別支援計画を作成し、それに基づき日中活動や作業を行った。
- しばさき彩ステーション利用者と、調布市子ども・若者総合支援事業ここあ利用者とをオンラインで繋ぎ、eスポーツ体験交流会でリズムゲームを行った。(調布市、電気通信大学、NTT 東日本、NTTe-Sports の協働による「eスポーツを基点とした包摂的な市民交流体験機会の創出事業」)
- 自分で稼いだ工賃を使って買い物など好きなことをする「お楽しみ活動」という名目で、個別活動の機会を順次設けていった。
- 状況に応じて個別送迎を行った。また、家庭の事情に合わせ延長利用にも対応した。

分析・課題

- eスポーツはその後、日ごろの活動にも導入した。リズムゲームや、スポーツゲームを通して利用者の新たな一面や得意なことを見つけることができた。
- 利用者個々の能力・状況に合わせた新たな個別活動も色々と創出されたが、定番化されておらず、安定的な活動としてより整えていく必要がある。

(2) 広報（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

(3) ボランティア、協力員、実習生の受け入れ

結果の概要

- ボランティアや協力員に、利用者支援やプログラム活動のサポートをしていただいた。市民が関わることにより、新たな視点を見つけることや地域での理解者を増やすこととなった。
- けやきの森学園からは3名の実習生を受け入れた。

実績等

行事・活動	人数	内容
水泳教室	1人	利用者の付き添い
日中活動	2人	利用者の付き添い等
園芸作業	1人	園芸
水泳・ダンス・音楽・ジャンベ教室講師	5人	専門協力員
社会福祉士実習生	0人	依頼なし
帝京平成大学からの実習生	1人	
府中けやきの森学園からの実習生	3人	
合計	13人	